

会 議 録				
会 議 名	第2回三豊市総合計画審議会			
日 時	平成29年12月21日（木曜日）13時30分～16時30分			
会 場	三豊市危機管理センター201会議室			
出 席 委 員	原 真志 委員長	三木 茂 副委員長	則久 郁代 委員	矢野 康江 委員
	新延 修 委員	平井 俊広 委員	増田 博志 委員	眞鍋 有紀子 委員
	横山 昌太郎 委員	田井 清 委員	今川 宗一郎 委員	中村 和良 委員
	砂取 とき 委員	橋本 純子 委員	黒田日出子 委員	
欠 席 委 員	なし			
事 務 局	綾 章臣 政策部長	石原一也 田園都市推進課長	芳地直樹 課長補佐	森 郁美 主任主事
コンサルタント	(株)ぎょうせい 田口 薫			
傍 聴 者	なし			
議 題	(1)「市民アンケート、子どもアンケート調査結果」について			
議事の経過 および 発言の要旨	原 会長	議事1、市民アンケート、子どもアンケートについて、まず事務局から説明をお願いします。		
	事務局	・資料1に基づき、市民アンケート結果について事務局より説明		
	(株)ぎょうせい 田口	・補足説明として、追加資料1を(株)ぎょうせいより説明		
	原 会長	<p>まず、調査結果報告書の方から何か気づいた点あれば発言願います。私から質問ですが、市民アンケート調査結果報告書6ページのグラフの今後の定住意向で、全体としては86.1%の多くの方が住みたいと思っているという事ですが、世代、年齢別に見た場合、定住となると若年層がどう考えるかと言うところが重要だと言う点で言うと、16歳から19歳のところが20歳以降の高いところと比べると、明らかに低い。つまり左から3つ分くらいが市内に住みたいということ、ずっと住み続けたいから、当分の間は、或いは市内の別のところに住みたいというのが半分以下。20歳以上は半分を超える方々が市内に住みたいとなっています。若年層がなぜこうなのかに焦点あてて調べてみると良いのではないかと、この辺りの人たちが出ていってしまうということになっているのかなと思いますので。実際学校関係や就職関係で出て行ってしまうという数字的な用件があると思いますが、意識の上でも10代20代以上でかなり差があるというところはなぜこうなのだろう</p>		

		<p>うと注目して深掘りしてみてもいいのかなという風を感じました。</p> <p>それでは他に委員の方々、何か意見がございますか。2 ページに居住地区別の回収率が出ていますが、大体の人口比と合うような割合になっているか、この点についてはどうですか。これはほぼ、人口割合に反映している形になっていますか。</p> <p>正確な数字ではありませんが、旧町別で人口の多かった地域から言うと高瀬地区、詫間地区、豊中、三野、山本、仁尾、財田というところでしたので、この結果から申し上げますと山本が若干少ないのと、仁尾が割と回答率が高いのかなということは見えると思います。あまり比率的にはおかしいものではないと思います。今申し上げた山本と仁尾のバランスが多い少ないがあるのかなという気はします。</p> <p>他の委員の方々、何かご意見ありましたら、お願いしたいと思います。</p> <p>年齢で言うと 50 歳以上が 67%と 50 歳未満 32%、若い方が少ない。</p> <p>回答者の年齢層が高齢の方が高い。若年層は回収率がどうしても低くなってしまっている。そのあたりはできるだけ努力して回収率をとという話ですが。年齢別のところのアンバランスさという点はどうですか。</p> <p>今回、前回のこの状況がどうだったか、対比する表を用意していなくて大変申し訳ありませんが、前回のアンケートは 16 歳から 19 歳代の回答の割合の率が 4.3%、今回 2.7%ということで、その部分のご指摘の通り、少し下がってしまっている結果になって、もう少し呼びかけのやり方に工夫があったのかなと反省しているところです。20 から 29 歳代ですけれども前回 7.1%で、今回 10.1%ということで、10.1%で全体から見たらどうなのかと言ったら、少し低いのですが、前回よりは多少向上しているということです。30 から 39 歳につきましては、前回 14.2%が今回 13.8%、ここは若干下がってしまったという結果になっています。そう言っ</p>
	事務局	
	原 会長	
	中村委員	
	原 会長	
	事務局	

		<p>た形でちょっと続いてしまっていて、総合的に前回とじゃどうなのかといったところですが、やはり前回も同様、若年層からの回答率が低いと、どうしても60歳代、50歳代からその上になるにつれて上昇傾向になるというのは前回と同様でございます、前回もご意見いただいた若い方をもっと拾うべき、この後にご説明させていただくのですが、今回成人式のその上のWEBアンケートも説明もさせていただきますが、若い方が取り組みやすい方法で、前回ご意見いただいたスマートフォンなどのできるような、若い方は今何をトレンドにして何をしているか、そういったところを分析した上で、今までの従来、行政のどうしても頭が固い部分でこういった形のアンケートにしてしまったのですが、そこは今後の反省点として検討してまいりたいと思っております。</p> <p>ありがとうございます。そう言った意味では今、中村委員さんからあった年齢のアンバランスさをいうところは、かなり大きなものとなっているので、全体として、特に年齢についての意見の相違がなければ良いのですが、この結果が市民全体の総意としての優先順位がこうだと言われた時に若年層の意見はこうで、高齢な方々はこうだと違っている場合などは、少し取り扱いに注意しないとイケない。ですので、例えば年齢別の実際の人口割合に比重をかけて計算する事で多少そのアンバランスさを補正することは技術的には可能だと思いますので、もしそういう年齢別に意見の違いがあるものが見つかった場合は、使う時には注意をしてもらえたらと思います。他にどうでしょうか。</p> <p>市民アンケート調査結果の52ページ、53ページの辺りで、「意欲のある人は働きやすい環境である思う。」とか「若い世代も働きやすい環境である。」という設問があるのですが、先ほど原会長がおっしゃったように、わりと若い方よりも年代の高い方が、きっと若い世代は働きにくいのではないかと、意欲がある人はきっと働きにくいのではないだろうかと判断されていて、素朴になぜなのだろうと。例えばこの情報が独り歩きしてしまったら、若い世代はわりとポジティブ捉えている人もいるのに、という感じに私だと受けてしまうのです。「子育てに企業が協力的か」の次の設問に関しても、わりと若い世代の方は積極的に支援してくれていると感じていたりするので、もしかしたら自由意見の中に</p>
	原 会長	
	眞鍋委員	

	事務局	<p>なぜそう思っているのだというのがあったかもしれないのですが、読み込めなくて申し訳ないですが、そこが少し気になりました。</p> <p>ありがとうございます。若い方と年配の方とのギャップが生じている部分といったところも実際ございまして、それが先ほどご説明させていただきました、自由意見の方でも若い方はどちらかと言うと、今の三豊の良い所を何かこうしたら良いのではないかとプラス的な考えの意見が多いのかなと、逆に高齢者の方々は今の問題点、そこを捉えてある程度こうしたら良いのではないだろうか、若い方は良い点をこういう点があるのだから、もっと活用したらどうといった、そういった発想の違うところがあるということで、こういった結果、これは事務局の個人的な解釈ですが、そういった傾向に出ているのかなといったところでございます。会長がおっしゃるように、ここにこういう結果が出ているから、全ての市民の方がそうだというのは、確かにおっしゃる通りなので、その辺は十分その中身を精査させていただきまして、今後の基本構想を策定する際にも、そういった考えに基づいて精査して、策定を検討して参りたいと思っております。</p>
	原 会長	<p>今の高齢者の悪い所をなおしていくという発想に対して、若い人は良い所を伸ばすというポジティブ思考というのはもしかしたら興味深い仮説になるかもしれません。</p> <p>若い人のポジティブ思考を伸ばすという環境づくりは大事なところだと思っております、ひとつ方向性のキーワードとして考えても良いのではないのでしょうか。</p>
	中村委員	<p>私は今の 52 ページ、53 ページの若い世代や意欲のある人が働きやすい環境だという回答の意味が私は理解できないのですが、若い世代が働きやすいまちとは、どういうまちのことを言っているのだろうか。意味が良くわからないのですが、会社がないから働けないか、働きにくい人たちがいるのか、その質問の真意がわからない。</p>
	原 会長	<p>雇用機会のあるなしなのか、会社が受ける環境がないかというふたつの解釈が確かに考えられますね。</p>

	中村委員	<p>働きやすい環境っているのは、どういう事を言っているのか、何を聞きだそうとしているのかちょっと良くわからないです。</p>
	原 会長	<p>文言としては、「あなたは性別や年齢に問わず、意欲のある人が働きやすい環境が整っていると思いますか。」という言い方でしたが、事務局の方ではどういう意図で。</p>
	事務局	<p>今ご指摘いただいた通り「働きやすい環境の定義」ここを今回こう言った設問の中で、こう言ったことがなりますよというそこまですききれてないと言うことで、当然回答された方についても、今、会長がおっしゃたように「雇用がよく生まれているから働きやすいよ」、「いやいやうちの会社はこういう制度があるから非常にのびのびとできるんだ」など、答えられる方の観点で違う内容で回答されてしまっているのではとの指摘については、その通りだと思います。</p> <p>ここで設問を設定させていただいた意図としましては、そう言った定義まで深く、漠然としてイメージ的に「働きやすい環境」としてしまっているの、今ご指摘いただいた内容は反省すべき点かなと感じているところでございます。</p>
	原会長	<p>結果としては、回答者が独自に解釈した結果で回答したとしか言いようがないですね。</p>
	(株)ぎょうせい 田口	<p>補足をさせて頂きたいのですが、この「意欲がある人」、「働きやすい環境が整っているかどうか」ですが、感覚的な所が多分にあります。わざと定義をさせてないのですけれども、要は有効求人倍率とかで、雇用環境として、そのまちあるいはその圏域が、ある程度雇用に対して活性化されているかどうかと言うのは定量的にわかる指標というのは一方ではございます。また別の調査等でも、労働環境等あるいは男女協働に関する調査等でもですね、各会社、企業における労働環境、例えば子育てがしやすいとか、よくあるキャリアアッププログラムあるとか、そのような事もある程度わかることとなります。</p> <p>ただ、今回はトータルとして三豊市っていうのは働きやすい環境になっていると思いますかということをお聞きして、それはも</p>

	<p>原 会長</p>	<p>うご自身の知識とか、周りの経験者であるとか、ご自身の経験とか踏まえた上で、ご判断をいただきたい。</p> <p>ここは多分に回答者にどういう風に考えていただくかということも含めて任せてしまっているところは正直ございます。ただ、これをトータルとしてどういう風にあげていったらということは、啓発をしていく、「頑張っている企業がこんなにたくさんあるんだよ」とかをもっと啓発していくとか、いろんな手法がこの調査結果から導き出されるもので、この結果一つを取ってどういう風な策を今後考えていくかと、一つ考えていくきっかけにもなるのではないかとということで、特に三豊市さんは雇用とか就業とかそういうようなところで、色々と前回から大きい課題を抱えているという風に認識しておりますので、あえてこのような曖昧な表現にした状況でございました。以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>感覚的なそれぞれの人が答えるような形の設問になっているということですね。</p> <p>そういった意味では、捉え方は雇用機会があるなしという話とその企業ごとにどういった制度がないかあるか解釈になると思いますが、おそらく意図しているのだろうと思うのは、そうは言っても三豊市に留まって、そうじゃない時はとざっくりとした印象や感覚的なものでどの程度、どこまで客観的なことを押さえているかは別として、その他主観的に三豊市の働きやすさをどう判断しているかということが、作用しているのではないかとのおそらく前提で、そういう感覚を捉えたいということではあったのかな。</p> <p>ですからまさにこの結果をどう捉えて施策につなげるかという点で言うと、もしかしたら本当に客観的にそういうもの働きやすい環境はないかもしれないけど、もしかしたらあるけれども知らないで出て行っているという可能性もあるので、なので啓発周知といったところが、改善する方向として見えるかもしれないという話はそういったこと議論する中で見えるかもしれないということではないでしょうかね。</p> <p>他にないでしょうか。かなり膨大な量で、なかなか全てを押さえるのは大変でございますが、事務局で焦点を絞って説明をいただいた点、あるいはそれ以外の点でも何か気づいた点、おありで</p>
--	-------------	--

		<p>したらご指摘をいただけたらと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>キャッチフレーズ及び自由意見につきまして、何かありましたら、キャッチフレーズ等これが良いなというのがありましたらお教えいただきたいということでございます。先ほど、「安心・安全」というキーワードが多い、世代を超えて、一緒になってコラボレーション、協力してつくっていくということが共通項として考えるというのがありました、委員の皆様どういったキャッチフレーズが印象に残っているでしょうか。</p>
	橋本委員	<p>私は、113 番ですね。</p>
	原会長	<p>三つの漢字の「美豊・味豊・観豊で住みよい 三豊市」。どういった点が特に。</p>
	橋本委員	<p>やっぱりすごく景色がいいというか、私が移住してきても、この三豊の自然の豊かな景色っていうのは大事で、次の味というのは「フルーツ王国」であったり、野菜であったり、すごい農業に力をみんなが入れようとしていて、色んな味があるよっていうのと、あとは観光、特に仁尾の方では観光客を誘致しようという動きが盛んなので、インバウンドというか、海外からのお客さんも来てもらえるような観光にも力も入れるということで、今までの継続をそのまま 10 年後に流せるフレーズになっているかなと思います。</p>
	原会長	<p>今の良さが非常に上手く表現されているという。</p>
	橋本委員	<p>そうです。いいあて字にしているなど。</p>
	原会長	<p>ゴロが同じ「みとよ」で漢字を選んでいるということですね。他にいかがでしょうか。ございませんか。</p>
	横山委員	<p>よろしいでしょうか。このキャッチフレーズというのは、ここから選ぶという感じでしょうか。</p>
	事務局	<p>選ぶということではなくて、こういったもので市民の人が持つ</p>

	<p>横山委員</p> <p>事務局</p> <p>砂取委員</p> <p>事務局</p>	<p>ているイメージを参考にして、今ご覧になって頂いていた現総合計画の基本理念、まちの将来像を検討していく上でのヒントとして活用していきたいな思っているところがございます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>先ほど、橋本委員の方から言われました、観光とか良いもの、食べるものとかそういったものを、例えばまちの将来像などのテーマにしたらどうか、そういった意味でのヒントで、当然そのまま行けるんじゃないのと言ったこともあるかと思うのですが、この中から選んで、どれかということではございません。</p> <p>例えばこの中から選んで、まちのキャッチフレーズを決めますということで、応募するっていう予定とかはないのでしょうか。市民の方たちが自分のまちに対する思いとかっていうのも皆さん入っているし、未来を描いていると思うので、そういうのを公募して、その方の考えを盛り立てていくのも良いかなと思いますけど。</p> <p>このキャッチフレーズは具体的に、前回お配りさせていただいた現総合計画の後期基本計画の5ページ目に、まちの基本理念ということで「自主・自立」と謳わせていただいております。そしてその次の6ページになりますが、そこでそのまちの将来像ということで「豊かさ」をみんなで育む市民力都市・三豊」と設定しています。まず総合計画につきましては行政における最上位計画であるということで、今回市民の方がどういったことを期待している、どういったことを求めているといったことを行政として把握させていただいて、行政側の計画として、今後はこうやっていこうと。</p> <p>まず行政が今後進めていくにあたってまず基本理念、その中で当然今回、先ほど申し上げた新市長の意向も充分反映したものでなければならないということで、そして今回この審議会において、三豊市はこういうところが課題やこういうものを方向性にしたら良いんじゃないかということをご意見いただいて、基本構想案をつくり上げていくのですが、委員の皆様から三豊市は、今後こういったことをテーマとして基本理念にしたらどうかとご意</p>
--	---	---



		<p>見に基づいてつくっていききたいと考えています。</p> <p>市民の方にアンケートを取って、出してください、選びましょうとなったら、そういった分析した内容ですとか、いただいた意見と、万が一違う文言になってしまう可能性もあるので、まずそこはたたき台を作成させていただきまして、本審議会でご意見をいただいて、設定していきたいと思っていますところです。</p> <p>補足になりますが、10年前の決め方もある程度フレーズ的なものを皆さんからいただいた上で、事務局の中でいくつか3つとか4つとかという、この将来像っていうものを考えさせていただいて、この審議会の中、各分野のそれぞれ選ばれた市民の代表との形になりますので、この中でこれにしましょうということを選んでいただいて、前回この「豊かさ」をみんなで育む市民力都市・三豊を決めた経緯もありますので、そういう決め方も今回そういう形ができればという風に考えております。</p> <p>だんだんつくっていく中で、こういったものをキーワードに決まってくる。今回は考える上でのベースとして、まず市民の方々にキャッチフレーズを考えてもらおうと皆さんがどういうことをする市に考えたいかを端的に把握できるのではないかとそういう位置付けと考えるわけですね。これを見ながらこれから議論して練りあげていこうということですかね。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>では、このキャッチフレーズプラスこの自由意見含めて、お気づきのことがありましたお願いしたいのですが。</p> <p>自由意見も先ほどの市民アンケートもそうなのですが、それを良く見ていましたら、私が感じたのはキャッチフレーズですが、「自主・自立」と「豊かさ」をみんなで育む市民力都市・三豊」すごく良いキャッチフレーズだと思うのですが、「自主・自立」っていうのをますますこれから進化させていかないといけないだろうと思うのですが、アンケートを見ていると地域によってかなり違うんですね。</p> <p>例えば私が住んでいる仁尾なのですが、60のアンケートのうち15項目が最低なのです。最高のパーセンテージ取っているのは3つなのですが、その3つが全部、観光とか自然とかそっちの関係だけなのです。だからそれで財田もかなり低いのですが、</p>
原会長		
中村委員		

		<p>それをずっと考えていましたら、7町合併して、なんとか7町統一してひとつにまとまってという方向で、来たのだらうと思うのですけれども、それは違うのではないかなと。それぞれの地域の特性をもっともっと活かすようにした方がより良いのではないかなということをしごく見ていて感じました。</p> <p>みんなで育むというのは、みんなの意見でなくて、一人ひとりがそれぞれ個性を生かして、そんな都市ができれば良いのではないかなと。そういうアンケート結果や自由意見を見ていて、高瀬の意見とか財田の意見とか仁尾の意見とかが全然違うのですよ。だから、そういうのもっともっと取り上げて、それぞれの地区の良いところを伸ばしていく。</p> <p>ちょっと可哀そうな気がと思ったのが山本地区なのですが、何もないのですよね。自分達が誇れるようなものが。そういう意見も結構ある。そういう人たちがどうすればいいのか、というように感じたので、みんなでっていうのを一人ひとり個性を出せるというそんなキャッチフレーズがあった方が良いんじゃないかなって感じはしました。</p> <p>合併をして全体をまとめるっていうのは課題としてありましたが、現実を見るとそれぞれの個性を生かすということが第一じゃないかと、それをアンケート見ても感じられるというお話でございました。</p> <p>今日の方向は、地区ごとの違いを詳しくというよりは、全体を把握する感じのことではありましたけれども、この地域の個性を生かすという方向のキーワードがいいのではないかなということですが、その点についてはいかがでしょうか。</p> <p>今、いただいた意見ですが、キャッチフレーズの方に戻ってしまうのですが、例えばNo.65 これは女性からの意見ですが「資源・能力を活かし、それぞれが自分らしく生きられる都市」というイメージをいただいているのですが、これが例えばそういった地域特性にある、この地域を活かした資源、地域にある突出した能力、そういったそれぞれ各地区において良いところを伸ばしていこうといったまちづくりをイメージしているのかなとも思っているのですが、今後、今どうしても三豊市がアンチコンパクトシティということで、これは決してまんべんなく全部同じように発展</p>
	原会長	
	事務局	

	<p>原会長</p>	<p>していこうという考えではございませんで、まさしくNo.65 で書いているように、資源等その地域で良いところを伸ばしてどんどん発展していこうと、そこを目指しているものなのですが、当然地域によっては商業地域が集約されている所もあるのですが、先ほど委員さんからおっしゃっていただいた仁尾でしたら観光「父母ヶ浜」、今注目を浴びているところなのですが、地域の特性を今後より伸ばして、特化させていくといったものは確かに、今後のまちづくりには重要ななと思っているところがございますので、その辺もいただいた意見を検討してまいりたいと思っているところです。</p> <p>うちの香川大学の場合も部局によっていろいろ違うのですが、その中で全体を統合・標準化・統一ルールでやろうという動きが多くて、そうするとうちのようなビジネススクールは夜間で社会人の方が多いので、他の部局とは全く違うんですね。そうするとなかなか全体の中ではうちのことが上手く取り扱ってもらえないというきらいを感じているところで、各条件の違うところをきちんと、その良さを生かしていくという発想が非常に重要だろうと確かに思いますね。</p> <p>地区別にみた場合の話も、住みにくい云々ということで日常的な買い物が不便ということについてもだいぶ違うという話もありましたが、一方で同じ地区でも買い物が便利というのと、買い物が不便と両方あると、要するにこれはどの地区であっても交通アクセスといいますかその条件の違いがあって生活満足度がだいぶ違うのだったら、その条件の違いというもので、三豊市全体の中でアクセス性等の生活的な利便性の違いがあるところの格差をどうするかという形のキーワードで組まないといけないのかなと。逆に地区別で見た場合には地区ごとの違いという感じになりますけれども、それはもっと地区内でも場所によってだいぶ利便性に違いがあるということですので、その辺りはしっかりとその地域といいますか、住んでらっしゃるところの条件をちゃんと把握して、きめ細かにやっていくということが大事なのかなと気もしますね。</p> <p>ありがとうございます。他にいかがでしょうか。</p>
	<p>則久委員</p>	<p>今回キャッチフレーズであったり、意見を見ていましたら、</p>

		<p>2,500名という無作為な方にアンケートをするということで、今住んでいる地域のことであったり、三豊市の市政ってということを再確認というか、見つめ直す良い結果になっているような気がします。</p> <p>来年の1月には行われるであろう「まちづくりカフェ」においてもまた、だんだん皆さんの関心が深まってきて、さらに良いものになる先駆けになったのではないかなと感じまして、また10年歩みを見据えてまた、今からの10年ということで、市民の意識が高まってきているようなそんなのを感じました。</p>
	原会長	<p>ありがとうございます。今の意見については事務局から何かご反応はありますか。評価していただいている。</p>
	矢野委員	<p>すみません。12ページの40番の高瀬の方のご意見なのですが、私自身は自治会に入っていますので、広報「みとよ」は必ず配っていただけるのですが、配っていただけないところもあるというのを今回初めて知りまして、そういうお宅がほしい市内でどれくらいあるのか知りたいなと思ったんですけど。</p>
	事務局	<p>確認させていただいて、後程ご報告させていただきます。</p>
	中村委員	<p>自治会加入率は、三豊市は81.1%ぐらいだったと思います。20%位の方は、自治会に未加入の方がおいでになると思います。広報をどこまで配っているかちょっとわからないですが。</p>
	事務局	<p>基本的に広報は自治会長さん通じて、各班とかで配布するのと、自治会に入られていない19%位の方に関しては、色んな所、支所に置いてたり、コンビニエンスストアとか、お店とかに置いてあるのを取っていただく、もしくは本庁に来ていただくという形の対応をさせていただいております。</p>
	矢野委員	<p>そしたら、自分がほしいと思ったら、そういう対処をしていただけるのだけれど、そういうことを知らない人もいる場合もあるということですよね。</p>
	橋本委員	<p>それについては私が引っ越した当時、そういうものがあるとは</p>

		<p>存じ上げなくて、去年から自治会にまだ入っていないので、近くのコンビニに置いてないですかと市の方に聞いたら、財田のコンビニには置いていませんということで、近くの商店さんで置いてもらえるようになって、今年の途中からかな、そこに時々お買い物に行くので、行った時にいただくという形で、だから自治会を通して配られる書類っていうのですか、案内っていうんですか、一切自治会に入っていない人には届かないので、どんなイベントしているとか、町ごとにカレンダーみたいなのを配っているはずなのですよね。そういうのも一切来ないので、わからないことが多々あります。</p> <p>自治会に入られている方は昔から住んでいるので、そういう情報が入ってくると思うのですが、一番必要なのは自治会に入っていない方に情報がいくということが一番大事なと思うんですけど。そういう方面も考えていかれたらどうかなと思います。</p> <p>そうですね。確かに今の橋本委員のお話のように引っ越してこられた方にとってこそ、そういった情報が非常に貴重な情報源になっているので、そういった方々に上手く届く工夫が何かできないかということが、確かに議論のポイントであるように思いますが、事務局その点どうですか。</p> <p>はい、今回いただいているこの自由意見につきましては、また行政内部でも情報共有していきたいと思ってまして、当然こういったご意見があると担当の方には目に留まるような形で発信したいと思っております。</p> <p>それで今回、総合計画の基本構想の策定ということで、まず市の大局的なところの考えを示す、そしてそれを具体的にやっていくための詳細な事務につきましては、それを管理計画する実施計画の方で具体的にどうやっていくのだというのをたてます。</p> <p>その際に、今回いただいている意見のこういう問題点があるから、今までこうやって具体的にやっていた広報配布事業を、こういう風にしていこうかと、そこでの検討がされることとなりますので、今回こういったご意見をいただきまして、その総合計画には広報の配布のやり方とかいうのをお示しするものではないのですけれども、総合計画を管理していく事業ごとの実施計画その</p>
	矢野委員	
	原会長	
	事務局	

	<p>原会長</p>	<p>中で、反映できるような形で、今後制度設計していきたいと考えているところがございます。</p> <p>もしかしたら関連するかもしれない話として、今年NTTのタウンページのアドバイザー業務の委員をしたのですが、要は電話帳ですね。それをいかに活性化するか、地域に役立ててもらえるか議論をしていましたけれども、今までは固定電話、NTTと契約しているところだけに配っていたのが、最近は全世界帯に配っている。つまりNTTの固定電話を入れてようが、入れまいが関係なしに全部に配っているという転換をしてやっているということで、全てのマスターにカバーすることになり、色んなことができるのではないかという話があって、防犯タウンページという試みをして大変評判がいいので、確か来年に香川で防犯タウンページというのをつくって全戸に配布するので、それもどういう風に工夫するべきか議論が今年も前半にしたのですが、そういった意味では、こう全戸に配布するって方針にできないのかとか、あるいはNTTが全戸でタウンページを配るんだら、それと一緒に配ってもらう。</p> <p>とりあえずこういうものがあるという情報は伝えるとか、広報紙があるので、自治会に入っていない方はこのようなところで入手してくださいとかいう利用者に対しての最低限の情報が伝わるような全戸に配布する機会をうまく使えないだろうか、そういったことを工夫の余地があるんじゃないかなという気がしました。検討はしてもらいたいと思います</p> <p>他にどうでしょうか。</p>
	<p>田井委員</p>	<p>今、会長さんが言ったのと矢野さんが言った関連で、実は詫間の方で市外から転入されてきて、三豊市すごいねと直に私聞いたんです。もっと早く聞いていれば、その補助金がほしいわけじゃないですが、そういう環境がもっとよりよく入っていたらいいのになということがあった後にこの冊子を見てこれ30ページの192番、詫間町の30～39歳の方もやっぱり三豊って良かったと書かれていますね。</p> <p>子育ての真っ最中の時にその時に、そう色んな今いった三豊広報紙、色んなものがあると思うのですが、ゴミの問題とか。転入した時に、私の記憶では数年前までは私三野町なのですが、転入</p>

		<p>と言ったら一覧のようなものをいただいていたような気がする ので、ちょっと聞きに行ったんです。今は、しないといけないと いうことで、高瀬町では渡しているかもしれないが今から三年前 には全世帯にこの行政に関すること、予算は市の財源でなく、広 告で企業的に窓枠何万ということで全世帯に配布する。これを私 取ってあります。いつまでも使えるから。病院関係、防災から防 犯から、役所の仕事から何でも広報まで入っております。そこま でのページはいらないけれども、来年度予算があればすぐにでも してほしいというのが私の今日の要望なのですが、転入して新し く来た時に窓口で冊子を渡せるようなものが以前はあったよう に思うのですが、今もうないのかな。</p> <p>過去に「暮らしのガイドブック」という冊子をつくって、民間 企業が広告収入を基につくって、それを全世帯に配ったこともあ ったと思います。</p> <p>ただそれは古くなってしまって、今はもう配られてないと思 います。今やっているのは窓口で、転入の登録された方に対して、 こんなサービスと言いますか、こんなことがありますよという一 覧とか、複数枚のお知らせとかしていると思いますが、今現在そ れくらいのところの対応かなと思います。</p> <p>今後これを強く基盤にしてですね、やはり小さなことでは ありますが、そういうのは来た方にゴミの云々じゃないけども、何か冊子 で「はい、ようこそ三豊市へおいでいただきまして」という時の 最低限必要なものだけを書くようなものがあれば良いなと気が しています。今後行政の方もひとつよろしくお願いします。</p> <p>その点についてですね、今後検討が必要かもしれません。よろ しくお願いします。</p> <p>意見も大分頂戴しましたので、そろそろ時間もだんだんなくなっ てきていますので、次の小中学生のアンケートの結果に移らせて いただきたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>・資料3 小中学生のアンケート結果について事務局より説明</p> <p>ありがとうございました。小中学生のアンケート調査結果につ</p>
	事務局	
	田井委員	
	原会長	
	事務局	
	原会長	

	<p>黒田委員</p>	<p>いてご説明いただきました。続きまして、ご意見やご質問がありましたらよろしくお願ひします。</p> <p>別の会があつて席を外さないといけないので、思ったことだけ言わせていただきたいと思ひます。</p> <p>住みたい理由とか、住みたくない理由とかを見たのですが、私は元々善通寺で、ここ三豊ではないんですが、香川県から学生の時は出たいと思ひていました。学校でも、香川県じゃなくて大きな都市に出たいと思ひていたので、一旦学校で出てしまうと、その良さっていうのがすごくわかりました。ここで住むようになって、善通寺で住んでいた時よりも長くここで住むようになったので、もっと三豊を好きになりました。</p> <p>それで、子どもたちの交換留学みたいなのがあるみたいなのですが、そうじゃなくて都会の子たちと交換みたいなので、大きな大学や県外の有名な大学を見てみたいっていう子が多いんだなと思ひたので、東京なり大阪なり有名な大学を見たり、いろいろなこと体験したりする。向こうから都会の子たちにはこっちに来て、向こうでできない農業体験とか、そういうのができるような、交換できたら良いなとちょっと思ひました。その時に住んで、自分の住んでいるところの利点と問題点等そうすることも知ることができるといけないかなって思ひます。そういう風によそからの意見、自分たちのまちだけ知っていると、そういう子たちが多いと思ひますけど、それだけじゃなくて、よその子どもたちの意見も聞ける場があつたら良いなと思ひます。</p> <p>あとキャッチフレーズとかも見ていたら、やっぱり自然豊かだと自分たちも感じているのが多くなつて思ひましたので、私も前回三つの豊かかって何だろうって知らなかったのをちょっと調べたら、本当かどうかわからないんですが、「海・山・田園」って書いてあつたので、そういうのも子どもたちも感じているんだなってすごい感じました。そういう良いところを外からまた、自分たちの中から感じてもらえるようなイメージ等なりあつたら良いなと思ひます。</p>
	<p>原会長</p>	<p>ありがとうございます。今ご意見に対して事務局の方からいかがでしょうか。</p>



	事務局	<p>はい、ご意見ありがとうございました。確かに外から見た目、外からの意見というのは非常に住んでいて、普段わからないところってというのはたくさんあると思うのです。そういう視点からの意見なり、ご発言は大事かなというところで考えています。</p> <p>昨年度もやっていますけれども、農村と都市の交流、三豊市と他の地域との交流ということで、今後も、色んな施策の展開、今、橋本委員にもこの件に関しては具体的に担っていただいているのですが、そういう部分も踏まえながら先ほど黒田委員にご意見いただきましたように、地域のこともまた新たな発見をできたらという風なことでは感じております。</p> <p>それと三つの豊かさという意味では、三豊郡の郡が始まった時は三野郡と豊田郡が合併して三豊郡になった訳なので、三つの豊が、海・山・田園っていうのは少し違う情報かと思います。</p>
	黒田委員	<p>インターネットで調べたらそう出ていたのでそうなのかなと思って納得していました。</p>
	事務局	<p>確かに、合併した時に新市建設計画というのをつくって、その中に三つの豊かさを育むっていうフレーズもあったので、そこを継承したのかなということだと思いますけど、その辺りも含めて、次の10年に向けての将来像っていうのをまた、考えられたらと思います。ありがとうございます。</p>
	原会長	<p>今、先ほど黒田委員が言われていた都会との子どもたちの交流っていう、確かうちのビジネススクールで色んな四国で取り組みをしている方に授業で講演をしてもらったんですけども、その中で徳島の南阿波の方だったかなと思うんですけども、実際にそういう事をしていて、そうすると小学生同士が東京から出ていく事が多いようですけれども、そうするとやっぱり徳島の子達は若干東京から来ている人たちがすごいんだろうなあと思って、最初は委縮してしまうんだけど、だんだんお互いの事が分かってくると、自分達のほうが、例えば海で泳いだり川で遊んだりといった事が得意だったりするという事が分かってくる、ああなんだ、東京の子ども達とは言っても大したことないな、というのが分かってくる、自分達にも自慢できるものがあるという事に気が付いて、最初は委縮していたものが、だんだん自分に自信を持っ</p>

		<p>て逆に「こうだ」とか言えるようになっているとかいうような、面白いところで子ども達の意識の変化とかがありますよ、という話も聞いて、それは面白いなと思っていましたけれども、そうしたことは多分色々やっていくと、おっしゃられたような、外からの目線で、自分達の良さを知るという効果もあるんじゃないかなと思いますね。そういった事は積極的に取り組んでもらえたらいいかなと思いますね。それでは、他の委員の方よろしくお願ひします。</p> <p>確かに本屋さんには少ないと思うのですが、図書館に関しては一町一図書館という事で、現実問題、利用がとても少なく、どうしていくかというのが本当は問われているところではあるかと思ひます。学生達、子ども達は多分学びたいというか、放課後にそこで何かあったりとか、あと大きな夏休みとかの時間にそういう所で勉強したいとかいう思ひがあるのかなというのを感じるのですが、せつかく1つしかない図書館ではあるけれども、もう少し利用しやすいような体制であったりとか、またその図書館に限らず勉強ができる場所というのは検討していくのは大事かなというのを感じました。</p> <p>あとキャッチフレーズに関しても、先程あった、無作為での2,500人の中でのキャッチフレーズと、やはり子ども達が考へているキャッチフレーズは似ているところがあつてですね、「みんな」とか「楽しい」とか「安全」という言葉がよく出ているというのを感じたので、これは世代を関係なく、同じ想ひというのを感じたように思ひます。</p>
	則久委員	<p>ありがとうございます。次どうぞ。</p>
	原会長	
	橋本委員	
		<p>先程の大人向けのアンケートと、今回のこれもそうなのですが、今この子ども向けのアンケートで、「えっ」と思つたのが、12ページで「防犯灯や街路灯が多くて住みやすいまち」で、満足度が「そう思ふ」、「少しそう思ふ」というので、満足度が高いように出ているのですけれども財田で子ども達が夕方帰つて来るのを見ると、みんな懐中電灯を持って歩いているのですよね。なので、こういう意見というの、先程各町での地域資源に特化して町ごとで落とし込んでいくというのと同時に、こういう</p>

		<p>ものも各町で実際にどうだったかというのを見ないと、おそらく財田の子が防犯灯が多いというのは、答えていない人が私のイメージではあるんですね。同じように仁尾でもそうじゃないかなというのがあるので、ちょっとその辺は、アンケートの結果のデータの使い方を先程おっしゃられたように、使い方を間違ってしまうと全然違う方向性に行ってしまうので、各地域の環境の特徴というか、それを踏まえた上で各町に合ったもので落とし込んでいく必要があるかなと思うんですよね。</p> <p>例えば高瀬とか豊中で農業をもっとと言っても、それだったらまだ財田の方が農業しかないというのがあるのでそっちになるだろうし、で、まあ防犯灯もどこを増やすのかと言った時に、高瀬、豊中はけっこう明るいけど、もう財田に行ったら本当に、私も夜に家を出るときは必ず懐中電灯を持っていかないと、5分の距離が真っ暗で歩けないという所もあるので、こういうアンケートを取った最後は各町で落とし込んでいくという事が市全体の今後の10年というのに必要じゃないかと思いました。これ(アンケート結果)は一般的にふっと見たら、すごく安全ではないか、と思うのですけれど、そうではないので。</p> <p>街灯に関しては、何か要望がありますかということではいろんなところで結構出てくるのですが、申請するのだけでも、まあ順番というか、どうしてもという所になってくると、やっぱりどうしても。</p> <p>人口比率が多い所ですよ。</p> <p>というのを聞いたことがあります。で、なかなかそこがやっぱり、人口が少ない所は実現ができない何かがあるのかな、というのは感じます。</p> <p>あとですね、図書館の話ですけど、仁尾は図書館、私も月2回、2週間ごとに本を借りているんですけど、その度に行くんですけど、中学生が放課後にいっぱい来て、図書館で勉強しているのですよ。だから仁尾は中学校の意見やなんかでも図書館の事は1個もないのですけれど、結構僕は充実しているなあと。私</p>
	則久委員	
	橋本委員	
	則久委員	
	中村委員	

		<p>も2週間で行って必ず借りているのですけれど、図書館はすごく便利だなと思っていますけれど。</p> <p>原会長 ありがとうございます。最初のこの防犯灯、街路灯の町内での差、違いに注意しないといけないという。</p> <p>新延委員 その辺に関して、三野町は30年くらい前かな、それでその後ですね、米が育たないと。米が育たないというか、9月頃になると虫が寄って来るし、明るいですよ、街灯ランプをつけていると。そうした事で、随分いろんなことがあって、今はある程度街路灯管理委員会が、その元を持っているわけですが、痛んだところがあると通報があったらだんだん直して行ってやっていますけれども、だんだん減っています。総数は覚えていないのですけれど、だんだん減っている。それをやっている地域は、そのままある程度残っています。その他は明るいと思います。危なくないと。非常に危ないところは、今は市かな。</p> <p>田井委員 先に防犯灯の場合はまちづくり推進隊に報告されて、受付されて。それから、現在その後全部今年度の予算で、LEDで三豊市全体の予算が取られて、全部を切り替えてしているが。本当に前に言ったように、困っているのは田んぼの時に全部カバーをかけて、下向きになって、やはり、端からはいいけれども、農作、特に財田の方で、そのくらい明るくすれば、田んぼ作っていないので私は分からないけど、そういうふうなものがあったりして、やる側にはこういうカバー、向きを指定されて、田んぼの方向が全部道の方になったりして、三野町の方は最初から明るい町という事で、本当に企業が持参でお金を出して、明るい通学路には、ダーッと三野津橋からズーッと明々。この維持管理はもう行政にやって頂いております。</p> <p>新延委員 電気代の負担は。</p> <p>田井委員 電気代も元は負担していたが、合併したら電気代がいらない。これは変わったまちだなあと思って私はみていたけれど、電気代も今は行政が負担しております。当然我々は今まで何十年も月いくら負担するというのは自治会が支払いをしていたが、これが良</p>
--	--	--

		<p>いとか悪いのではなしに、これは良い事だと思うのだけれども、このアンケートをまちづくり推進隊の、本当にお世話する方に一回見せてあげたいなど。これは見せてはいけないので見せないけれども、こういう子ども達の、特に図書館。私は地元だから三野町だけ、公民館の一部なのです。宿題していても、端から見えるのでしにくいとか、せまいとか、九州のどこかの大きい図書館も、多分市が研修に行かれたと思うけど、図書館でまちおこしをして、そういう作った器でなしに、作った器を次どういうふうにするか、どういう開発をするかというような形で、これは失礼なことを言うが、例えば高瀬なんかは本当に、行った事あるのだけれども、暗いなあと。新延さんが言ったように、図書館のうんぬんは子ども達の意見を聞いて、図書館というのは非常に大事なので計画にはめていってほしいなというのは感じました。まあ財田の方も明るくしてほしいと思います。まちづくり推進隊とお話されて、予算を取ってもらったらいいと思います。</p> <p>街路灯には設置基準があつて、何メートルおきに一か所。それと照明灯の建てる位置、半径 20 か 50 メートル以下の田んぼの同意書をもってこないといけない。それがなかなかもらえないのです。私も実はもらいに走ったのですが。一軒でもあったらだめだという。それで、設置基準で何メートルおきについたらオーケーという事なのですが、何メートルおきについても暗い所があるわな。それはもうだめ。私、自治会長をしているのですが、何度言ってもだめ。そんなものは自治会でつけた箇所も何カ所かあります。</p> <p>スポンサーが減ってしまったのですね。</p> <p>さっき新延さんが言った、企業、商工会がつけているのもいくつかあります。照明灯も全部行政でつけるのではなしに自治会でもつけるものがあります。それはまた自治会で相談してつけたり。まあ行政でつけてもらったのが一番いいと思うのですけれども。</p> <p>はい、ありがとうございます。いわゆる防犯灯、街路灯については。</p>
	三木委員	
	新延委員	
	三木委員	
	原会長	

横山委員

よろしいですか。恐れ入ります。これを拝見させて頂いて、そもそも小中学生にまちづくりの事について聞く意図というのはどういうところにあったのかなというのはどういうところにあったのかなというのは、私すごく感じたのですね。おそらくまちづくりの事を考えてもらうというきっかけにするというところが一番だと、私は個人的に思うのですけれども、基本的にどの答えを見ても6割7割が「そう思う」という答えが出てきているというのは、小学生なんかは特に自分のまち以外の事を知らないもので、例えば街灯が多いとか少ないとか、そういう事を比べられる基準を自分の中に持っていないと思うのです。

ですからそこを踏まえてこの回答の数字を見ていくというか、参考にする必要があるかなと、1つ感じました。私は決して小中学生に考えてもらう事が役に立たないと言っているわけではなくて、たぶんこの総合計画もそうなのですけれども、これからまちづくり、10年で切れるものでは全然なくて、20年、30年、場合によっては100年という中で、子ども達がまちづくりに対してどういう想いを持ってくれるのかという事を、愛着だけではなくて、自分達のその地域の事を考えようというモチベーションを持つ事がすごく大事なのだろうなと。そういうことでやはり、ひとつ私が思うのは、図書館の話が出てきていましたけれども、勉強する事、学ぶ事に対して子ども達がどう感じているのかというのを、ぜひこれ、もう終わっちゃったんですけれども、聞いてもらえたら良かったなあと思ったのです。

この後の総合計画の評価のところにもつながってくると思うのですけれども、教育の充実をしましたという事が、行政としてこれをしましたというはもちろん自己評価であるのですけれども、じゃあその結果、子ども達が学ぶ事が楽しくなったというパーセントが増えたとかですね、そういう形で見られるようになっていくと、このアンケートの活用方法というのが出てくるのではないかなと感じました。

もう1点、学ぶところも意見がすごく多いなあというのは、私も自由意見を見ていて思ったのですけれども、1つ気になったのが、小学生に比べて中学生になると減っているのですよ。数を数えていないのですけれども。カフェとかで勉強できる場所が欲しいとか、学校以外で勉強できる場所が欲しいというのが、小学生の

	<p>則久委員</p> <p>事務局</p>	<p>時よりも中学生で大分減ってしまうというのが、ここら辺がさっきの学ぶ事に対する私達の、子ども達へのアプローチの仕方にかこう…。まあこれちょっとかなり文科省とかああいうところの話もあるので一概に言えないのですけれども、ちょっとそこら辺を考えておくべきことなのかなあとは感じました。</p> <p>ただ単純に、中学生は部活が増えて、塾があるというのが、利用が少ない原因でもあるかなあと思います。で、先程言われた所で私も思ったのが、例えば今図書館を利用されている子ども達に、今からでもアンケートを出すことは可能かと思うのですね。来られている方に、どういう利点があって、どういうところを改善して欲しいか。実際に利用されている方にまたアンケートを取るのも面白いのではないかなというのは感じました。</p> <p>まず図書館の話ですけれども、今ちょうど教育委員会、生涯学習課の方で図書館基本構想というものを作っています。その前提として同じような形でアンケートを取って、それをベースにお話を始めていって、じゃあ三豊市の将来的な図書館のあり方、それは施設を含めてどうあるべきかというのを今議論していて、ちょうど今素案ができたタイミングくらいだったと思います。で、今からパブリックコメントが入って、始まってくるといいますので、またその辺りで意見が反映されたものが出て、公にされてくるのかな、というタイミングで考えています。</p> <p>それと先程横山委員のほうからおっしゃられた、まずこのアンケートを子ども達に取る意義として、まずおっしゃられたようにまちづくりに対して意識づけというところがまず大きいところです。それと、4年生という事で10歳、10年後になりますと20歳を迎えますので、じゃあ自分が20歳になった時のまちはどんな感じで考えてくれるかな、というイメージトレーニングみたいなところ含めてやらせて頂いています。</p> <p>それと学ぶ場所というところ、先程の図書館の話にもなりますけれども、じゃあ例えば役所だけが運営する図書館だけではなくて、今は色々な形の学べる場所というのがあると思うのですけれども、例えば長野の小布施でしたら町中図書館という取り組みで、民間の方のお家の中にパブリックスペースがあって、そこで子ども達が学校の帰りに勉強したりしている空間が町中にあったり</p>
--	------------------------	---

	<p>横山委員</p> <p>則久委員</p> <p>原会長</p>	<p>する。そういうまちを目指していくというのも1つの新たなまちづくりの中ではあると思いますし、そういうところもあわせてですね、先程も委員さんからもお話が出ていましたけれども、まちづくり推進隊とか市民団体の活動もあわせて、役所だけでできない部分はじゃあ、他のところがこういうふうに担えるのではないかと、ということもこの場で色々ご議論頂いたらというふうには思っていますのでよろしくお願いします。</p> <p>この中にも閉店したヤマダ電機を勉強できる場所にして欲しいと書いてありましたけど。リニューアルオープンされましたね。</p> <p>新しく作るのは、無駄な事が多いので、やはり今あるものをどう生かしていくかというのが課題になるかと思いますので。</p> <p>そういう遊休のスペースをうまく活用してね、そうやったらいいと思いますね。ありがとうございます。非常に様々な意見を頂戴いたしました。</p> <p>それでは事務局の方は今いただいた様々な意見をぜひ今年度策定します、構想案に反映させていただいて、議会対応では示して頂けたらと思います。当初2時間程度ですというふうに聞いていたのですが、非常に多くの意見を頂戴して、もう既に2時間が来てしまっておりますけれども継続してよろしいでしょうか。…はい、すみませんけれども。</p>
議 題	(2) 主要施策状況調査、まちづくり指標達成状況調査の結果について	
	<p>原会長</p> <p>事務局</p> <p>原会長</p>	<p>それでは続きまして議事の2、後期基本計画に示す「主要施策達成状況調査」、「まちづくり指標達成状況調査の結果」について、事務局から説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。</p> <p>・主要施策状況調査、まちづくり指標達成状況調査の結果について事務局より説明</p> <p>はい、ありがとうございます。ただ今事務局より説明を頂きましたが、これにつきましても委員の皆様からご質問、ご意見が</p>



	横山委員	<p>何かありましたらよろしくお願ひします。いかがでしょうか。かなり資料全体が膨大なものになっておりますので、数値を網羅するのはなかなか大変かと思ひますけれども、お気づきの点がありましたらよろしくお願ひします。</p>
	事務局	<p>失礼します。追加資料2の星印の事でちょっとお伺ひしたいのですが、行政の方が頑張ったと言っても、まあ市民の評価が低いものというはすごく分かるのですが、逆にちょっと見ていると、行政側の得点が70点未満のものって大体市民の方の評価が高い。一部や公園の整備だけ除いてですね。これもちょっと見直しが必要というか、そこまで頑張らなくていいのではないか。そういった扱ひなのでしょうか。</p>
	事務局	<p>ただ今ご質問頂きましたが、(行政側の評価の得点が)低いものでも、(市民側の)満足度が高い。しかしそれを止めてしまったら、市民生活に影響が出る。それなら不満になってしまうといった…、かなり行政はやっている施策、事業が多いので、一概にじゃあどれなのかという説明は難しいのですけれど、まあ上下水道の供給につきましても永年的にそういった供給は当然しなくてはならないと。得点は低いだけでも、満足しているよといったところを見直しにかけて、そこからさらに高みを目指すべきで、より満足してもらう必要があるのではないかといった内容の精査は必要かなとは感じております。</p>
	横山委員	<p>精査されるという対象、候補という事ですね。</p>
	事務局	<p>そうですね、全ての事業においてこの結果を見て、今のやり方でどうなのと。それこそおっしゃるように、ここまでやっているのだったらもういいのではないのかといった分析も当然必要かなとは思っているところでございます。</p>
	横山委員	<p>ありがとうございました。</p>
	中村委員	<p>よろしいですか。これは160の施策で、各課が全部実行したかどうかという評価で、さっき事務局も言われていましたけれど、それで結果が良かったのか悪かったのか、その部分がちょっとよ</p>

		<p>くわからないというので、例えば全部が全部数値で評価できないものもあるかと思うのですけれども、先程から話題になっておりましたまちづくり推進隊なんかは、自由意見の中でも何をやっているのか分からないとかですね、そういう意見も結構あるのですね。</p> <p>重点施策としてまちづくり推進隊、前市長の肝入りで作ってそれなりに評判にはなっていますけれども、市民の人達全員がその事に対しての評価はバラバラなのですよね。ですからそういうものを市民のほうに発表していくという事が必要なのではないかと思いますのですよ。だからその辺の施策の結果を発表して市民の人の意見を聞くという、そういう事も必要なんじゃないか。まあ先程それが大事なんだと事務局の方も言っていましたので、多分何らかの形でやって頂けるのだと思うのですけれども、その辺のことはぜひやって頂きたいなあとと思うのですよね。</p> <p>結果が果たして良かったのかどうだったのか、施策が果たして良かったのかどうだったのか、施策が全部良かったのかというと、必ずしもそうなのではない気もするのですよね。まちづくり推進隊は一億いらかお金を投資して、その分の効果があったのか、そういうのをやはり市民の人達に向かって情報を公開していく必要があるのではないかと思いますのですけど。</p> <p>ありがとうございます。先程のアウトカムのところにつなげていっての評価をどうするかという事に向けての情報公開、周知という事かなと思いますけれども、その点については事務局の方はいかがでしょうか。</p> <p>先程委員さんからお話を頂いたまちづくり推進隊の活動について、情報公開という事で、議会の方からそういった活動は果たしてどういった成果になっているのかといった事が今回の議会でもお話がございまして、報告をさせて頂いたところでございます。それを全ての市民の方に公開するといった事についても、今おっしゃって頂いた意見、大事だと思っていますので、また内部で色々今後の方向性も踏まえて検討して参りたいと思っております。</p> <p>あわせて、今まちづくり推進隊自体の認知度、何をやっているのか分からないというところ、こういった場で意見を頂いたという事を団体にもお返しして、団体の方でも広報活動に努めるよう</p>
	原会長	
	事務局	

	<p>原会長</p> <p>矢野委員</p> <p>事務局</p>	<p>なお話をさせて頂けたらと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>私は農業委員をしまして、農業の事がすごく気になるのですけれど、農業振興のところが多様な担い手の育成が 100%の達成という事が出ているのですけれど、これって今までを思い出しても、若干昔よりはIターンとかで入ってくる方も見受けられるのですけれど、どの程度のハードルというか数とかがわかりますでしょうか。</p> <p>失礼します。この達成度調査の結果のA判定B判定の考え方なのですけれども、「この数値をクリアしたらAにしてください、この数値を下回った場合はこれにして下さい」といったアナウンスではないのです。そこで、あくまでも総合的にその担い手、育成といった色々事業を農業振興課の方でしているのですけれども、その事業の実施内容でどうだったというところを、申し訳ないのですが、行政側の感覚で、今まで取り組んできたものを、そこをA、B、Cと実施してきた部分はどうだったのという事で判定させて頂いたものでございます。数がこれだけになったからAにしたとか、そういった事ではございませんので、行政側の自己採点方式の、感覚によるA B C Dといった事でございまして、それこそ先程ご意見も頂きましたが、本当に成果になっているのかと。回数をこなせばいいのというものでも当然ないので。そこから突っ込んだ話をアウトカムの、そこをじゃあどう拾っていくか、そこが本当に行政にとって今後の課題かなと思います。</p> <p>行政としては、先程もご説明を申し上げましたが、どうしてもアウトプット、例えばこのまちを健康にしよう、じゃあ健康体操教室を5回、10回しますよと、そういった目標は簡単に設定できて、それで結果は10回しました。ではそれによってどうなったのかというのがアウトカム。これによって確かに病院に行く数が減ったとか、健康になったとか、それがアウトカムの部分なのですけれども、そこを行政が把握するところは難しいところでございます。そこをいかに拾って、成果とした施策の目標設定をできるかが今後の課題かなと思っています。今後そういった事を制度設計させて頂いてですね、できるだけ本当のアウトカムの成果</p>
--	-----------------------------------	---

		を設定できるような仕事のやり方、また把握の進め方を考えていけないといけないのかなと思っているところでございます。
	原会長	担い手がカバーできるまで達成できているかどうかを反映したAとかBとかいう話ではないですね。
	事務局	そうです。こういう事業を実施した、こういう事をした、ちゃんと予定通りしています、参加者が何人いるから、それだったらこれだ。担い手が困っている、反映できていないというのが実はあるのかもしれない。そういった部分をどうやって把握し、どうやって拾ってそれを選択していくかといったのが、本当の課題かなとは感じておりますの。
	矢野委員	あまりにもアンケートの方に出てきたものと達成にギャップがあったので、農業の立場としてはどんなものかなあとって。
	事務局	そこはまさしくアウトカムの方はやはり把握しにくいという部分です。これは行政として難しい所もあるのですが、そこをいかに拾っていくかが今後の課題かと思っています。 その辺りも含めて今回の総合計画だけでなく、その下にぶら下がってくる個別計画、来年度、農業振興計画も作って参りますので、その辺の実際的な数値も含めた計画づくりというのを心がけたいと思いますのでよろしくお願いします。
	今川委員	民間と組むことは可能なのですか、情報共有等みたいな。例えば水産業を100点にしているのですけれど、でもアユを放流してオッケーみたいな感じとか。実際は水揚げがどれだけ増えているとか。それで、これがやはり100点というのはなかなかだなあ、と。
	事務局	その辺りは各担当の判断というところでの点数付けという事になっています。
	今川委員	そこを情報共有できるようになったら、一番皆さん見えますよね。

	事務局	<p>行政も昔ながらに回数をこなした、開催した、何人来てもらったというのが、どうしてもそういう指標があつて。そういった面も、それをする事によってこういう結果が出たよというのが本当に大事なのは重々分かっているところでございます。ただそこが本当に把握を容易にできて、なおかつ本当にこういう施策をして良かったなあと思えるような制度設計が大事かなと思っておりますので。</p>
	原会長	<p>他にいかがでしょうか。</p>
	則久委員	<p>判定評価のところ、唯一、そのままDのところは、5ページの上水道の安定供給のところの老朽管の更新というところなのですが、今後の課題、計画を確認したいのと、あと今までのアンケートの中では上水道の安定供給、意外と皆さんからいいという評価がずっと来ていたのですが、実際に蓋を空けると、あれっていう、Dがとても多い状況があるので、この辺は今からどういうふうな形でされるのか。</p>
	事務局	<p>ご質問がありました点は、51ページの箇所かと思われませんが、例えば先程の水道施設の耐震化、老朽管の更新、ここら辺の事になるのですけれども、例えば、ここの部分は私も気になったので水道局に確認したのです。それで、老朽管の更新につきましては、これあくまでも年次計画で計画を策定しているところでございます。そこで、計画通りに水道局の方では確実に実施しているのです。ただ、三豊市は大変広いものですから、例えば計画で単年度で一気に全部やるわけにはいかないのです、計画で今年はこちら、来年はここといった進捗をしております。計画通りには実施しているので、やはりどうしても残りの部分が多いので、そこを踏まえるとDかなという判断をしたという事でございます。決して計画通りに全然進んでいないとい事ではなく、全体を通して件数が多いものですから、まだ全体を踏まえたら、総合的に言ったらDかなという事でございます。少しこのあたりが分かりにくいところなんですけれども、あくまでも感覚でつけて頂いたという事があつてですね、その考え方によって、部署によっては考え方に相違が出てしまっているなというのがあつたので、ここはちょっと反省しているところでございます。</p>

	原会長	ありがとうございます。
	橋本委員	この採点というのは、各課の方が自分の課を採点しているのですか。
	事務局	そうです。本課から担当課に依頼して担当が記入します。
	橋本委員	例えばISOとかだったら会社内でそれぞれの各部から代表が出て、審査員というか、そういう形で各課を回って、ちゃんとISOの基準通りに作業ができていくかというのがあるので、もし今後、もう少しこれを実質の、外の目と中の目との意見を点数とマッチングさせたいのであれば、ちょっとそういうISOに似たようなやり方も今後検討されると、もう少しギャップが減るのではないかなという気がします。
	中村委員	こういう施策を作る審議会ではなしに、結果を判定する審議会を作ればいいのではないですか。オンブズマンじゃないのですけれども、何か必要なんじゃないかなと。
	事務局	その点につきましては先程課長の方からも話があったのですが、現総合計画を具体的に毎年度やっていく実施計画、ここの制度設計が非常に重要となって参りまして、今でも毎年度実施計画に基づきまして事務事業評価というのをしているのです。ただその事務事業評価で成果指標をどんなものを設定しているのかと言うと、やはりどうしてもアウトプット指標を成果指標にしてしまっている割合が多い。これも行政の傾向ですけれども。今度その制度設計を新たにすることにあたっては、その成果指標を本当に市民の方の意見とイコールになるような、いかにアウトカムの成果に設定できるか、そこだと思っています。そういったアウトカムの要素を成果指標としまして、毎年度事務事業評価を行うと。それと、今お話もございましたが、外部評価という、三豊市につきましても、事務事業評価の外部評価も過去には実施してはありましたが、例えば事務事業評価結果の公表でありますとか、今お話があったように、本当に外部委員も踏まえた内部の審査会みたいなものも検討していく価値はもちろんです。

	原委員長	<p>今後そういった制度設計を考えていくのが今回の第二次総合計画の重要な事となりますので、そこは十分認識して、制度設計に努めたいと思っております。</p> <p>今までの各委員さんのご意見を聞いていると、市民の目からすると、アウトカム指標が達成してこそAではないかと。アウトプット指標はよくてもBではないのという気がしているので、そういった意味では何をA、B、Cとするかについての、その内容について互いの部署の間での合意と言いますか、それを統一させるような作業はされるといいのではないかな、と。そしてアウトプット指標でもいいけれども、それは100%達成してもBですよ。さらにアウトカム指標を設定していて、それが達成できていればAですよといったような事を合意していくような事を、内部の相互監視、相互チェックでやっていくような体制を作っていくと、おそらく今日の委員の方々が言われたような違和感というものにも答える事になるのではないかなというような気がしますがいかがでしょうか。</p>
	事務局	<p>まさにその通りでございます、今はどうしても、実施したからAといった評価も正直ございます。そういった意味で今いただいた意見を基に、十分留意して、制度設計をさせて頂けたらと思っています。</p>
	原委員長	<p>他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。これにつきましても委員の方のご意見を素案に十分に反映させていただけたらと思います。よろしくお願い致します。</p>
議 題	(3) 三豊まちづくりカフェ(市民会議)及び成人式参加者WEBアンケートの実施について	
会議の概要	原会長	<p>ではさらに進めさせて頂きます。議事の3、「三豊まちづくりカフェ(市民会議)及び成人式参加者WEBアンケートの実施」について事務局より説明をお願いします。</p>
	事務局	<p>資料⑥に基づき、三豊まちづくりカフェ(市民会議)及び成人式参加者WEBアンケートの実施について事務局より説明。</p>
	原会長	<p>それではまちづくりカフェと成人式のWEBアンケートの2点について何かご質問、ご意見がありましたらよろしくお願ひい</p>

		<p>たします。</p> <p>成人式のアンケートについて、これは完全にWEBだけという事になるのでしょうかね。例えば会場で書ける方は書いて返ってもらって、そこで景品を出せるとかいう事はなくて、完全にWEB上だけという事になりますか。</p>
	則久委員	
	事務局	<p>失礼いたします。その点、実は成人式を担当している生涯学習課と協議をしたのですけれど、毎年度の状況ではちょっとそういう状況ではないといった回答がございまして、まあこれは行政側の方からですけれど、それはちょっと難しいというご意見も頂いたので、今回こういう形で実施しようかと思っています。</p>
	則久委員	<p>私も何回か行った事がある。意外とみんな自由に楽しくやっているので、そこで書ける時間は意外とあったりはします。結構みなさん早くから会場に来たりしている。またそういうのも検討してもらったらいいのではないかと思います。</p>
	原会長	<p>はい、ありがとうございます。この回収方法に関連してなのですが、このWEBはスマホ対応しているものでよろしいですか。</p>
	事務局	<p>はい、若者はスマホが主流ですので、スマホ対応のページをご用意させていただきます。</p>
	橋本委員	<p>アンケートで記念品が欲しい方が住所を入力すると、(運営側で住所が)分かるやんっていう話になるかなと思うのですが。</p>
	事務局	<p>その点なのですが、実は生涯学習課でご案内している方以外にも、例えば県外に出られて住所を移している様な方も来てもいいよという事になっていまして、それで後日記念品を送付するといった形にさせてもらっています。</p>
	橋本委員	<p>それよりも、スマホで最後まで行って、「ありがとうございました。この画面を見せてもらったならその場でお渡しします」みたいな方が、住所とかを書きたくない人にはいいのかなと思うので</p>



	事務局	<p>すよね。アンケート内容、一番最後まで行って住所って言ったら、もしかしたら自分の住所とか名前とか分かってしまうかもしれないという不安もあるのかなと思って。よくあるじゃないですか、アンケートに答えてその画面をレジで見せたらもらえますとか、そういうシステムの方が、多分若い子らは名前を書かなくてよいし、やりやすいのではないかなという気はします。</p> <p>これをやる際に、その辺は教育委員会とすり合わせをさせてもらったのですが、当日はちょっと…という話も頂きました。ただ、委員様のご意見もいただいたので、こういう意見もあるからどうなのかなというのは再度調整させていただきます。</p>
	砂取委員	<p>あとこれお渡しする時に。多分成人式ってみんなワイワイガヤガヤされている中で司会進行をされる方もいらっしやると思うのですが、司会の方に「今の時間に皆さんこういうのがありますよ」というコメントとかを流していただくと回収率が上がるかなと思いました。</p>
	原会長	<p>ありがとうございます。設問の間5なんですけれど、これは問題を孕んでいるかなと思うのですが。まあ重要な問いだと思うのですが、まずこの選択肢の3の「わからない」という方は、特にその後何も答えないでいいのかなと。間5の2というのは「ない」とはっきりしているけれども、「わからない」と答える人にも聞いたほうがいいのではないかなあという気もするのですが、というのは、この「将来は三豊市に戻り、暮らす考えはありますか」に対して、条件付きで戻りたいと思っているという人は多いと思うのですね。つまりそこに適当な仕事があればといったような事がおそらく大きな条件になるわけで。だから戻りたいと思っているけれども、実際はなかなかどうかなあ、わからないなあ、という人が現実には多いのではないかという気がしていて、だからそういう条件付きで戻りたいと思っているというのをどういうふうに捨てるのかというのはまずあると思うし、そうすると、この「わからない」という人に何も聞かないというのはどうかなあという事で、わからない人に、今はわからない、決められないと思っているかについても、聞いた方がいいのではないかと。それが取り組むべき政策的な課題を抽出する事にもつながる</p>

		<p>のではないかなと。この条件付きで、おそらく帰りたいけれども、といった層を、この設問でどう捉えるか。そしてその迷っている人に迷っている状況をどう聞くかという事をもう少し検討されたらいいのではないかなと思いますけれど、どうでしょう。</p>
	事務局	<p>実はこれ、この会が始まる前の休み時間に実際やってみました。で、ここの「わからない」に印をつけてみて、「あれ、この後どうなるのかな」と、私自身も疑問があったので、今会長からお話を頂いた件、改めて検討させていただきたい。</p>
	原会長	<p>よろしくお願いします。他にいかがでしょうか。ではまちづくりカフェの方はどうでしょうか。カフェというカジュアルな、自由にできる雰囲気があるものなので、会議室である場合には雰囲気。「あ、何でも言ってオッケーね」という感じになるような、ちょっとソファをどこかから持ってくるか、空気感を柔らかくする工夫をされるのがいいのではないかなと思います。こういう感じだとちょっとかしこまって、しゃべりにくいかもしれませんので、その辺の空気感を大事にしてもらえたらと思いますけれども。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
	眞鍋委員	<p>まちづくりカフェの方なのですけれども、結構今の若い人達ってワークショップずれしているというか、あらゆるところでワークショップがあるので、ワークショップで意見は言ったけれど、なんかふわっとした感じで、大体正解みたいな解答というか、そっちに向かって走って行って、それでおしまいという繰り返しもう飽きちゃっているところがもしかするとあるかもしれなくて…。今、丸亀のに参加をしているんですけども、やっぱり具体的な行動に全くつながらないというのが悩みの種みたいになっているところがあって、もしできればなんですけれども、例えばテーマのところで、空き家とか空き地とかにもっと踏み込んで、それをどうすればいいと思いますかとか、何がいいかはちょっとわからないですが、具体的に面白いネタを持って帰れるよね、みたいなことが作ればいいなあと思う、という意見です。</p>
	原会長	<p>はい、ありがとうございます。</p>

	横山委員	<p>今のご意見に関連してなんですけれど、私これ、出ようと思っ ていて、この間香川県の里海大学のワールドカフェの研修を受け てきたのです。ちょっと出られないのですけれども、仕事があっ て。研修の時に、早稲田のビジネススクールでファシリテーショ ンとかを教えている先生が、すごく強く言っていたのが、テーマ をしっかり設定しないと、ここの設定で出てくるものが全然変わ ってくるので、これはしっかりしてくださいと強く言われていま した。参考情報だけです。</p>
	原会長	<p>他にいかがでしょうか。よろしいでしょうかね。ではこの件に つきましても委員さんから頂いた意見を参考にして進めさせて いただけたらと思います。よろしくお願いします。</p> <p>はい、これで議事は完了しました。すいません議事進行の不手 際で1時間ほど予定オーバーしてしまい、どうも申し訳ございま せんでした。その他という事で他に何か委員の皆様からございま せんか。…それでは他にご意見もないようでございますので。本 日の会議は以上といたします。ご審議ありがとうございました。 事務局の方へお返しします。</p>
	事務局	<p>皆様長時間のご審議、まことにありがとうございました。本日 頂きましたご意見等につきましては、次回の会議に向けまして参 考にさせていただきたいと思えます。またまちづくりカフェに関 してもぜひ委員の方々にご出席を賜れますようによろしくお願 い申し上げます。閉会にあたりまして政策部長のほうから一言申 し上げます。</p>
	綾政策部長	<p>お礼のあいさつ</p>
	事務局	<p>以上をもちまして第2回総合計画審議会を終了したいと思います。 皆様お疲れ様でした。</p> <p>3. 閉 会</p> <p style="text-align: right;">(終了)</p>